

『偉人が愛したスイーツ』

クリームとドリンの冒険』

吉田 菊次郎／編・著 時事通信社
(2008年)

お菓子はわたしたちにとって、身近な食べ物です。お菓子がなければ今の生活はすこしものたりなくなるでしょう。偉人たちも同じです。ここには、偉人たちをとりこにしたスイーツがのっています。レシピもついているので、マリー・アントワネットやナポレオンが愛したスイーツを作ってみることができます。



『ハイジ』

ヨハンナ・シュピリ／作
上田 真而子／訳 岩波書店 (2003年)

ある日、ハイジはアルムでおじいさんと暮らすことになりました。山小屋でのおじいさんとの生活はとてもわくわくすることばかりです。ほしくさのベッドの気持ちのいいこと。ヤギのお乳のなんておいしいこと。山の名前なんて知らなかったけれど、知らないことはおじいさんがきちんと教えてくれます。アルプスの自然の豊かさを感じてください。



『妖怪アパートの幽雅な日常』

香月 日輪／著 講談社 (2003年)

高校入学を機に学生寮にはいる予定だった夕士のもとに、学生寮が火事になったと知らせがあった。寮が再建されるまでの半年間、別の住まいを探さなくてはならない。光熱費、水道代、賄い費こみで2万5千円という破格の物件が見つかった。「安いものには理由がある」で、どうやらいわくつきらしい。オバケが出るってほんとな。



『大どろぼうホッツェンプロッツ』

オトフリート・プロイスラー／作
中村 浩三／訳 偕成社 (1982年)

少年カスパールと仲良しのゼッペルは、盗まれたおばあさんの大切なコーヒーひきを取り返そうと、大泥棒ホッツェンプロッツを捕まえにいくことにします。ところが、反対に捕まってしまう、大泥棒と大泥棒の友達である大魔法使いの召使として働かされることに。

大魔法使いはマッシュポテトやジャガイモだんごが大好きなので、たくさんのジャガイモの皮むきをカスパールに命じます。2人は無事にお家に帰れるのでしょうか。



『四十九日のレシピ』

伊吹 有喜 ポプラ社 (2010年)

熱田家の母、乙美が亡くなった。妻に死なれてから、良平はなにもする気がおきない。ところがある日、褐色の肌に黄色い髪、目の周りを銀色の線でふちどった娘がやってきた。その娘は乙美に四十九日あたりまでの面倒を見てほしいと頼まれたという。乙美の暮らしのレシピに生きる気力がわくおはなしです。



『食堂かたつむり』

小川 糸／作 ポプラ社 (2008年)

恋人と声を一度に失った倫子は故郷に戻り、食堂をはじめます。1日1組だけのちよつと変わった食堂です。前日までにお客さんと面接し将来の夢などを聞き取って、メニューを決めていきます。食堂かたつむりの、そのお客さんの為だけに作られた料理を食べると、恋や願い事が叶うと、色々な人が訪れるようになります。

世界にひとつしかない厨房で作られる料理をきっと食べたくなると思います。

